

漢字処理を用いた 会議録情報処理システム



コンピュータ システムの利用形態が技術計算や大量統計処理から、さらに高度な情報処理へと進むにつれ、数字やかな文字から漢字かな交じり文の処理できる日本語情報処理システムが、官庁、新聞報道界、出版界など広く各方面から要望されている。

たとえば、情報検索において漢字かな交じりの膨大な量の議事録、年鑑、百科事典には、索引はぜひ無くてはならないものであり、このたび開発された「国会会議録情報処理システム」は漢字に関する克明な調査を基礎に独特の漢字処理方式を採用したものである。

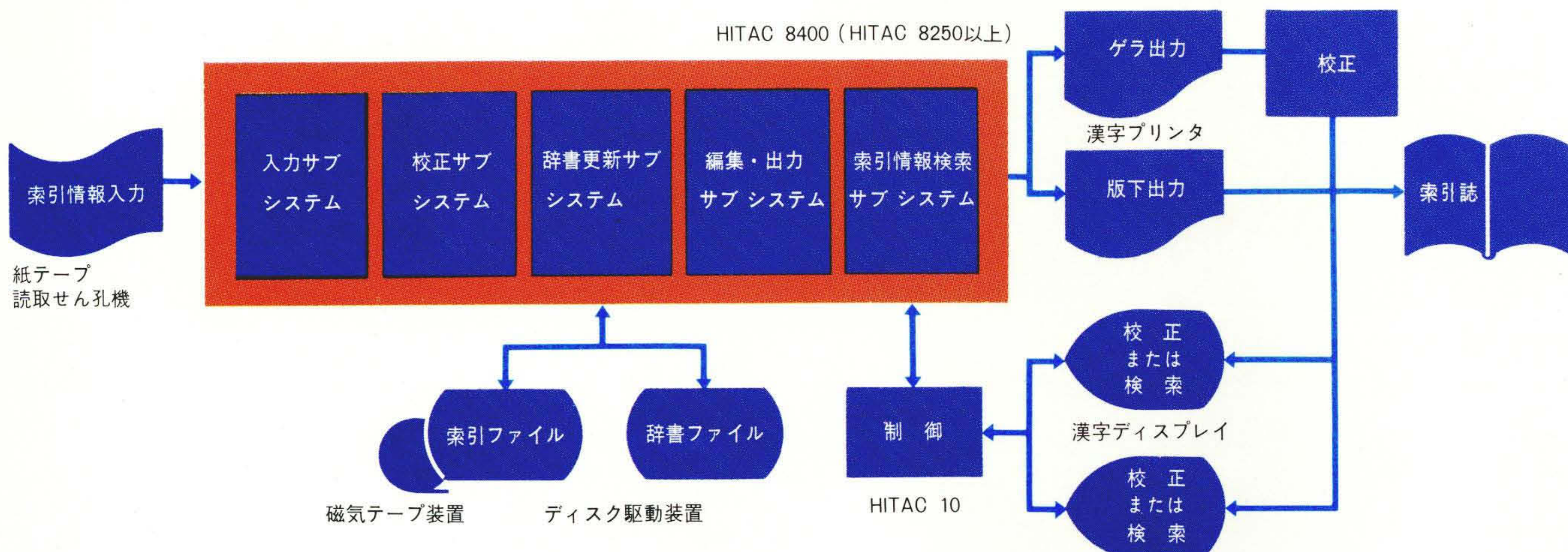
国会会議録は、衆・参両院の本会議および委員会の議事録で、その量は年間25,000～28,000ページにもわたり、

必要な議事、事項を捜しあてるのは容易なことではなく、索引の作成が必要とされていた。国会図書館では、昭和37年から総索引の作成にあたってきたが、膨大な人手と時間を要したため、昭和45年、索引作成の機械化が図られ、国会図書館当局と日立製作所の共同作業で、「国会会議録情報処理システム」を開発し、人名、事項名などによる総索引を完成した。

索引作成のプロセスは、まず係員が会議録を読みながら、人名、事項を抽出し、索引データ票に記入する。次にこの索引入力データから基本ファイルと辞書ファイルを作り、二つのファイルから索引を編集し、それが漢字プリンタから印画紙の形で出され、現像処

理の後、印刷に回される。以上のプロセスのうち、ネックとされた校正作業も漢字ディスプレイ装置を使用した校正モニターによって、修正必要箇所をディスプレイ画面に呼び出し、正しい文字をキーインすると同時にミスを修正できるようになって、作業を非常に順調に進捗させる。

本システムの特徴は、(1)きめ細かい基礎調査をもとに漢字処理の新方式を案出したこと、(2)漢字入力のミスをリアルタイムで校正できること、(3)独特の辞書ファイル方式を採用したことなどであり、このような索引作成をはじめ、新聞、出版物の編集組版、あて名印刷、選挙速報、株式表示などのインフォメーションに直ちに役だつものである。



会議録情報処理システム構成図